



海老沼小だより

～かしこく やさしく たくましく～

3月号

平成29年2月28日

さいたま市立海老沼小学校

新たな決意と心構えを持って進級・進学を

校長 原田 守康

17日、関東と北陸で「春一番」が吹き、この日は朝から南風が強まり、各地で気温が上昇しました。校庭周辺の木々の芽も急にふくらみ始めました。いよいよ春の訪れです。

早いもので、6年生は3月22日に卒業式を迎えます。また1年生から5年生は、あと一か月足らずで次の学年に進級となります。児童には進級・進学に向けての意識と新たな決意をもって3月を過ごしてほしいと思います。

現在、6年生と私との会食を行っています。給食の時間、1日に5～6人の児童と会食をしていますが、学級やグループによって自己紹介を含めて話題は様々です。

児童の多くは、中学校に入ってから部活動に高い関心があり、6割くらいの児童は、今の時点で入りたい部活動が決まっていました。部活動以外では、中学校での勉強のことや将来の受験のことに不安をもっている児童もいました。児童の中には、兄姉が中学生で頑張っている様子を話してくれた児童や、受験のことを考えて、学区外の中高一貫の中学校等へ進学することを決めた児童の話など、中学校入学に当たり、様々な情報を共有することができたようです。6年生には中学校でもぜひ頑張ってもらいたいと思います。その他の話題として、小学校での思い出の話も出ました。

児童の思い出として、多かったのは修学旅行、館岩、そして運動会での学年の出し物、マラソン大会等があり、学級・学年の友だちと体験や活動したことを語ってくれました。

15日にはお別れ球技会を実施しました。6年生と5年生が縦割りの混合チームを作って学級対抗で行いました。この球技会は、5年生が準備から運営まで全て担当し、選手宣誓、ルール説明、審判、得点係、記録係等、責任を持って取り組んでいました。ゲームを通して、両学年の児童の交流が深まったほか、5年生は6年生から最高学年を引き継ぐ自覚を持つよい機会となりました。

3月に入りますと、6年生の卒業に向けて、6年生を送る会、卒業を祝う会、お別れ式、見送りの会等があります。特に6年生を送る会では、リコーダーの演奏、合唱、合奏、歌の劇、踊り、呼びかけ、6年生と在校生双方の手作りプレゼント等、各学年や児童会で準備や練習に取り組み始めています。卒業期の行事を通して、送る側の児童たちは、お世話になった6年生への感謝の気持ちと卒業をお祝いする意識が高まるものと思われます。また一層の心豊かな人間関係を築いてくれるものと思います。

6年生には式辞で触れますが、次の言葉を贈ります。

「僕の前に道はない 僕の後ろに道は出来る」 この詩は「自らの進む道は自分の力で切りひらいていく。その歩みが「人生」という一本の道となる。」といった意味です。詩人である高村光太郎の代表作の1つで、最も幸福な時期に作りあげた作品で、第一詩集のタイトルともなった詩「道程」の冒頭にあり、作者の再生の喜びと決意が高らかに歌いあげられています。

進級や進学する在校生・卒業生には、今後の頑張りや活躍を期待したいと思います。

本年度も地域、保護者の皆様には、本校への深いご理解と子どもたちの健やかな成長のために多大なご支援を賜りましたことを心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。